

今週の相場はどうなる？ 今週の相場はどうなる？

作成者：山根亜希子

○9月25日～

先週の日本と米国の金融政策の発表では、大きなサプライズはなく、日本はまだもう少し金融緩和を継続し、米国はあと1回の年内の利上げが想定されています。

米国は先週予想通り利上げを見送りましたが、来年以降も金利が高い状態が続くということで、経済にどのような影響が出てくるのか気になります。

FRBはタカ派的な姿勢を崩しておらず、これが米株にどのような影響を与えるかです。

米国株の動きが今後どうなっていくのか不透明ですが大きな調整が10月あたりに起こるリスクは想定しておきたいです。

米国株は秋に大きく崩れることが多く、最近では日本株堅調、米国株軟調という動きも見られますが世界の株価は米国株の動きを無視できないため株価動向は引き続き重要です。

米国の長期金利の上昇がどうなるかも米国株の動きに影響します。

米国の長期金利は今月に入って、昨年秋の高値を超えてきています。

このまま4.5%を超えて5%近くまで上昇していくと強い米国経済にも逆風が吹いてくる可能性があります。

日本は消費者物価指数を見ると2%を超えて1年以上が経過していますが賃金上昇を伴わないインフレということで、日銀は金融引き締めへの転換については慎重な姿勢を崩していません。

年内は特に政策変更は無しという可能性が高く、そうすると日米で政策の方向の違いが鮮明になるため円安トライの動きが続きそうです。

今後はどのあたりの水準で、日銀や政府が介入を匂わせてくるかもポイントになります。

クロス円についても利上げを据え置く国が増えてきているため昨年から続いた利上げの動きは落ち着いてきそうです。

ただし、どれだけ期間金利が高い水準で据え置かれるかわからず、利下げの動きに転じるにはまだまだ時間がかかりそうです。

今後は金利動向だけでなく、各国の実体経済の強さに目が向いていきそうです。

● テクニカルで見た重要ポイントは？

<ドル/円>

今週は149円のせとなるかに注目したいです。

148円ではさすがに勢いが弱まってきているため148.5円を明確に上抜けるかどうかです。

週足では陽線が続いているので、上昇トレンドは継続中です。

今週の相場はどうなる？ 今週の相場はどうなる？

ただし、上値は限定的なため大きく148円台で買いポジションを取るのはリスクが高いです。
できるだけ下がってきたところを待って、押し目買いを狙いたいです。
下値は22日の安値147.3円あたりを維持している間は強い動きが継続しそうです。
147.3円を割り込んでも146円あたりにもサポートがあり、9月初めにつけた144.5円あたりの安値を下回らない限り、上昇トレンドは続いていると考えてよさそうです。
146－149円程度のレンジを意識しながらタイミングよく売買していきたいです。

<気になるクロス円>

クロス円は、方向感があまりよくわからないペアが多く、ポジションをどちらかに大きく傾けるのはリスクがあります。
ユーロはレンジ相場のような動きになっています。156.5－158.5円程度のレンジを行ったり来たりしているような状態です。
ユーロはドルに対して7月をピークに下落してきているため、この下落がおさまらない限り、円に対しても上値が重くなってきそうです。
ポンドも8月後半から下落トレンドが続いています。安値更新の動きには注意がいります。
オセアニア通貨は上昇に転じてきているので、下がってきたら買いを狙ってみたいです。

*クロス円とは円との通貨ペアの総称：〇〇／円というような通貨ペアのことです。

<今週のファンダメンタル？>

日本では日銀・金融政策決定会合議事要旨、9月東京都区部消費者物価指数、8月鉱工業生産などがあります。

米国では7月ケース・シラー米住宅価格指数、8月新築住宅販売件数、9月消費者信頼感指数、9月リッチモンド連銀製造業指数、8月耐久財受注、4－6月期GDP個人消費(確定値)、4－6月期四半期コアPCE(確定値)、前週分新規失業保険申請件数、パウエル・FRB議長発言、8月個人消費支出、9月シカゴ購買部協会景気指数、9月ミシガン大学消費者信頼感指数などが発表されます。

欧州ではユーロ圏とドイツで9月消費者物価指数、ドイツで9月IFO企業景況感指数、8月小売売上高などがあります。

ほかには英国で4－6月期GDP(改定値)、カナダで7月GDPの発表などがあります。